

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2004年10月28日

49号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

障害者が地域の中で安心して暮らせるように



地域福祉予算の充実を

繰り返しおそわれた台風の被害の後に、大地震。目を覆うばかりの惨状に、何にも力になれない無力感を感じております。

こんな中で、障害児や障害者たちは、どう過ごしているのかと思うと、心が痛みます。戦争中は、厄介者として「牛小屋に隠されて生活してきた...」という話を聞いて衝撃を受けたのが、私が障害者運動をしている方たちの活動に接した初めでした。今は、そんな差別をする人の方が恥ずかしいというのが通念となりつつありますが、事態が極限状態に置かれた時、動けなかったり、急激な変化に対応できない人達はやっぱり弱者であります。

平成7年阪神大震災のおり、私たち「支える会」の前身「地域で生きる障害者を支援する会」は、「港北ふれあい委員会」との共催で、被災地の障害者団体の方を呼び「阪神大震災にまなぶ」という講演会を行うと共に、港北区及び近隣の地域の障害者や親達にアンケート調査を行い、報告書を出版し災害時の対応、対策の検討への提案を行いました。

今繰り返し放映される画面を見て、当時一番初めに立ち上がった障害者団体や地域作業所の活動の事、生活面で困った事などの話が思い出されましたが、障害者の活動も地域差が大きく、今度の場合はどうなっているのか心配されるようです。

* * *

ところで、私たちの間で今一番気になる事は、障害者福祉予算の削減です。

先日活動ホーム連絡会、地域作業所連絡会、グループホーム連絡会に対し、横浜市より“来年度の厳しい状況についてご理解とご協力をいただきたい”という説明会がありました。

一方、国の「脱施設」の基本方針で、横浜に作る予定であった3施設について国からの補助金がでない事になったため、横浜市が肩代わりし1億7000万円も支出する事を補正予算で決めています。これは、地域の中で暮らすという方針に逆行するものであり、当然当日は障害者や現場で働く出席者の中から激しい声が上がっていました。

福祉局としては「これまでの水準は維持したい」といっていますが、「横浜市が単独で担っている部分を何とかする事に...」と誠に歯切れの悪い解答でありました。

豊かな命の持ち主に

阿部 八重子



私が介護疲れで体調を壊し辛い思いをしている時に、2 館目のグループホームが完成しましたので息子が入所する事が出来ました。体験入居も経験していましたので、健市も違和感もなくとけこんでくれました。

入所当時は私も余計な事を考え心配でしたが、この頃は本人も昼は「しもだ・よつばの部屋」に行って、帰りは「グループホーム・第2よつばホーム」が日課だと思っているようです。早く慣れて365日制になればとそんな贅沢な事を考えています。お陰様で私も、気分転換の為、箱根、京都と旅行に行き、又久しぶりに私の実家九州で、親戚の結婚式に人並みに参加する事も出来ました、良い思い出となりました。これも一重に地域の方、会員の皆様の御協力の賜物と感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

最近心に残った朝日新聞の記事です

『2004年9月末現在日本には100歳長寿者がおよそ23,000人いて、前年の統計よりも2,500人近く増加したといえます。』

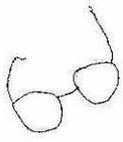
現代人の長寿の理由に医学の発達が関与しているのは確かです。では薬も体温計も血圧計もない大昔はどうだったのでしょうか。きれいな空気を吸い、澄んだ泉の水を飲み、野に実る野菜や果物を食べていた時代には、人間が自然に生きられる期間は70年と考えられていたのかもしれませんが。

人間の寿命については、ドイツの民話集であるグリム童話でもとりあげられています。神様はロバ、イヌ、サルに30年ずつの寿命を与えようとしたが、動物たちはそれぞれの理由で断りました。「長く生きて人間から酷使されるだけ」というロバ、「足が弱り、歯が抜けてまで生きたくない」というイヌ、「笑い者になりながら30年も生きるのはつらい」というサル。結局、ロバは18年、イヌは12年、サルは10年の寿命をもらいました。欲張りな人間だけは神様が与えた30年では満足しなかったため、ロバ、イヌ、サルの寿命に40年を加えた70年をもらいました。

しかし健康で楽しく生きられたのは最初の30年だけで、残りの40年は、動物が恐れられたように酷使され、足が弱り、歯が抜け、頭が衰え、最後は笑われて寿命が尽きたといえます。

日本人の寿命が延びているのはけっこうな事と思いますが、たとえば100歳以上の長寿者のうち多くは何らかの援助や介護を受けなければならない状態という事です。寿命は長ければ長いほどよいわけではありません。めいめいが与えられた寿命は、めいめいが自主的に生きがいをもって使える時間でなければなりません。例えば、世界中で援助を必要としている人々や国のために時間を使ってみてはどうでしょうか。それでこそ人間は豊かな「いのち」の持ち主といえるでしょう。』

私も生きがいを見つけ豊かな命の持ち主になりたいものです



めがねのこえ

この前 母と2人で さそわれて菊名であつた「環境を考える会」に参加してみました。
この会は、子育て支援の人や 福祉活動をしている人や 市民活動をしている人が
あつまって いろいろなことを話合う会です。

この日は 新横浜周辺の「バリアフリーの検討会」のことや 前から地域を便利にするミニ
バスを はしらせようとする グループのテスト運行のようすを ビデオなどで報告してい
ました。

私は「車イスも乗れるといいな」と思って聞いていました。
私は、「これから 電動車イスで あちらこちら 気軽に歩きたい」という夢がありますので
路線バスとは ちがうところを走る ミニバスの話しは うれしいです。

それにしても 赤ちゃんの子育てグループが がんばっているなんて 考えていなかった
ので おどろいています。

おとしよりのグループや 地域をよくする活動や いろいろあつて 障害者はほんの少し
だなと思って帰ってきました。

これからも 近くで こんな機会があれば 出てみたいです。
いろいろなことを見たり 知ったりすることは おもしろいですね !!

大原 友子

よつばホーム運営委員会の報告

ここ 10 年来という大型台風が近づきつつあつた 10 月 20 日、新田地区センターにて平成
16 年度第 2 回よつばホーム運営委員会が開催されました。雨の中お集まりいただきましたみ
なさま、本当にご足労さまでした。

委員会では主に事業報告、会計の中間報告がなされました。事業報告としては今回医療と
の連携を取り上げ、入居者の健康管理がどのようになされているかが説明されました。また
ヘルパーの利用状況や、上半期に行ってきた外出等の報告もあわせて報告されました。

第 2 よつばホームもスタートして半年が経過しましたが、やはり入居者の障害が重いとい
うことで大変な面もありますが、焦らず徐々に生活体制を整えていきたいとのことでした。
残る下半期も大きな事故もなく安心して過ごせる住まいとして機能できるよう、職員一同励
んでいきたいと思ひます。

ご入会、ご継続 ありがとうございます

〔敬称略〕

《賛助会員》

荒井 洋一 荒井 奈津美

〔16 年 10 月 28 日現在〕

今月のよつばホーム

よつばホーム

朝の風景

朝6時半、職員が起きてきて食事の準備を始めます。そして職員と同じ時間から働き始める人がもう1人、福田次郎さんです。

水・金・日曜の朝はパン食なのですが、次郎さんはそれにあわせてみんなの飲み物を用意してくれます。自分の分を用意したあとまずは花岡さんの飲み物、そして藤田さん、高島さんの飲み物を入れ、職員の分まで作ってくれます。



ミルクティー、コーヒー、牛乳、豆乳 etc. 次郎さんが一生懸命考え、一つ一つ丁寧に入れてくれます。サービスがいいので男性職員の分はだいたいポットで作ってくれて、3～4杯は飲めるようにしてくれます。

たまに味が薄いこともあります。愛情たっぷり朝の眠気もどこかへいってしまいます。

第2よつばホーム

10/10（日）新吉田町内の運動会に参加してきました。

参加者は福田次郎さん、藤田博之さん、高島勢津子さん、花岡佐千江さんのよつばホーム入居者と第2よつばホームから山田宏さんです。

よつばホームから車で数分の新田小学校で行われました。

前日まで台風22号の影響で雨、風が酷かったのですがグラウンドは水溜まり一つ無く、万全の状態でした。

運動会は、それぞれの町内に分かれ順位を競います。よつばホーム、第2よつばホームは西部町内会に入っています。

参加した競技の方は、『新吉田朝市』です。

「よーい ドン！」で野菜が置かれてある場所まで走っていくといった競技です。人数分置いてあるのでハズレ無しです

ジャガイモ・玉ねぎ・サツマイモ・大根等々 大収穫で帰って来ました。

もうすぐ50号

いつも見守っていただいたり、お手伝いしていただきありがとうございます。

さて、今度、「たわわ」が50号になります、はやいですね。記念に少しにぎやかな紙面にしたいのでハガキでも、FAXでも何でも結構ですので、“おたより”をおよせください。会員の皆さんと紙面で交流の機会にもなればと思っています。毎月この「たわわ」をお送りしてきましたが、支える会のようすや、障害者のことが少しでもわかっていただければうれしいです。



編集部